

## ICT活用プロジェクト夏期講座 講座K報告

平成21年8月17日(月) 14:00~17:00 於 高槻市立芥川小学校

○講義「障害支援の基礎知識 ～最近思うこと～」 講師：大西 俊介さん

○シンポジウム「みんなで考えませんか？～ICTの先に有るもの」

	シンポジスト は以下の方々です。
	中野 雄司さん (株式会社コムフレンド) <a href="http://www.com-friend.co.jp/">http://www.com-friend.co.jp/</a>
コーディネーター	
田代 洋章さん (アクセスインターナショナル) <a href="http://www.accessint.co.jp/">http://www.accessint.co.jp/</a>	奥平 綾子さん (ハルヤンネさん：おめめどう) <a href="http://omemedo.tanba-sasayama.com/omemedoutop.html">http://omemedo.tanba-sasayama.com/omemedoutop.html</a>
	大島 友子さん (Microsoft 株式会社) <a href="http://www.microsoft.com/japan/enable/default.aspx">http://www.microsoft.com/japan/enable/default.aspx</a>
シンポジスト は以下の方々です。	
大西 俊介さん (びーすの支援センター) <a href="http://p-s-sakai.net/">http://p-s-sakai.net/</a>	金森 克浩さん (独立行政法人国立特別支援教育総合研究所) <a href="http://www.nise.go.jp">http://www.nise.go.jp</a>
宮崎 美和子さん (こころ工房) <a href="http://kokorokoubou.com/">http://kokorokoubou.com/</a>	小川 修史さん (兵庫教育大学大学院学校教育研究科) <a href="http://blog.livedoor.jp/ogatti21/">http://blog.livedoor.jp/ogatti21/</a>
石原 洋さん (アクセスインターナショナル) <a href="http://www.accessint.co.jp/">http://www.accessint.co.jp/</a>	中園 正吾さん (JOHNAN 株式会社 福祉事業部) <a href="http://www.ponpon-land.com/">http://www.ponpon-land.com/</a> (ぼんぼんランド)



———以下の報告は、参加した支援研書記藤岡が主観的にまとめております。———

大西俊介さんは主にコミュニケーション支援者をサポートする取り組みをされておられます。今回は大西さんと志を同じくする各界の方々にも集まっていたいただき、ユニークなシンポジウムが可能となりました。コミュニケーション支援は、本人が楽しめること、安心できることが大切です。良いツールとの出会いは、働ける喜びへとつながります。新しい脳スイッチについても触れられましたが、やはり本人が使いたいと思うために、その人の立ち位置や願いを理解することが原点となるようです。そうなることで、利用者は大人の顔になり、イライラが消え、自分の思いを発信できます。学校現場では、しばしば支援者の思いが先行し、子どもに年齢以下の扱いをし、本人の気持ちの変化を待たずに取り組みを進めがちです。これでは、広汎性発達障害の方を不登校に追いこみ、自閉症の方にわけのわからないこと

を強要して、活動自体を嫌いにさせてしまうことにもなりかねません。また、大西さんは自閉症の特性—視覚の強みに早くから注目され、パームトップパソコンに乗せる「あのね♪」を開発されましたが、これを、DS（任天堂）に載るようにもされました。本人が楽しんで自分用にアレンジできる工夫があるようです。その他の方々も、自作するには、けっこう手間隙がかかるけれど、あって良かったと思えるツールを紹介されていました。こころ工房、アクセスインターナショナル、コムフレンド、おめでとうやJOHNAN株式会社 福祉事業部のページもぜひごらんになって下さい。ソフトや書き込みやすいメモ、機能的で安全なパーティション、スイッチ、ちょこっとした工夫、あ、これだと思えるノウハウやアイデアも合わせて提供されています。よく面白そうなツールを見つけ、そのまま現場に持ってきて使おうとしても、うまくいかないことがあります。また、ためになるものだからと子どもに押しつけても、拒否されることがあります。アレンジやマッチング、プロデュースなどの過程があって初めてうまくいくのだと思います。使う方の不安を取り除き、使いたい気持ちを引き出し、使う喜びを感じられるようにすることに支援者側の腕が問われるわけです。また、コミュニケーションとして使われたら、しっかりと発信された思いを受け取り、なんらかの答えを実行して返す相互の関係の大切さも強調されていました。それがなければ、意欲につながりません。ましてや嫌なことを強い、指示に使うのはもっての外です。その場合、本人がツールを使わなくなり、投げ捨ててしまったり、破壊することもあるでしょう。こういった点の大切さは、多くのシンポジストが指摘し、発言されていました。

意欲さえ引き出せれば、指一本動かすことが難しい人でも、ツールを使って文章をつくり、自分の思いを綴り、本を出版する例もあります。（参照「障害者だってキスさせて」）ユーザーが実際に使い、もっとこんなのないかなと投げかければ、さらに改善し、新しく開発していきたいという意欲が発言されていました。人口知能を再現する立場（もしも・・・の研究所）からは、学校で、アスペルガーの人の抱えやすい難しさを実感し、助け出す考え方を言われていました。たとえばWBC＝笑いをベースのコミュニケーション＝楽しいことからコミュニケーションをはじめます。学校教育の中で負のイメージもちやすい彼らが、間違う怖さから開放され、間違っても楽しく生きていけるんだと心の底から思えるようになれば、どんどん積極的になれるでしょう。もしも・・・の研究所のページには、面白いものがたくさんあります。

Microsoft 株式会社では、ずっと障がいのある人が使いやすくなるようなアレンジを提供してきていますが、今回、現場ですぐ使えそうなツールやデータが同社のホームページからフリーで入手できるようになっていることがアピールされていました。今後より広く知られることで、もっと充実していくと思われます。独立行政法人国立特別支援教育総合研究所の教材コンテンツも同じように大変役に立ちます。

今後、このような便利のツール等がしっかり浸透し、その後どのように変わっていくだろうかということですが、それは、眼鏡使用者の眼鏡や一般の人が使う日常的な道具と同じように、使っていることに意識なく、自然体で使え、また必要で無い時は、普通にスルーして・・・負担感を感じさせない、という感じかなあということでした。子どもたちみんなが、幸せな学校生活を送れることを願います。